

'80 年版

臨床検査技師国家試験問題集
解答と解説

「検査と技術」編集委員会 編

一九八一年九月発行



1980年版の

80 年版



臨床検査技師国家試験問題集 解答と解説

「検査と技術」編集委員会 編



医学書院

臨床検査技師国家試験問題集
<1980年版>

<検印省略>
¥ 2,500

1979年12月15日発行 第1版第1刷 ©

編集 「検査と技術」
編集委員会
発行者 株式会社 医学書院
代表取締役 長谷川 泉
東京都文京区本郷 5-24-3
郵便番号 113-91
電話 (03) 811-1101

学術写真製版・三報社印刷・長野製本

3047-24265-0305

北越製紙/キンマリ/B70 kg

本書の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・
出版権の侵害となることがありますので御注意下さい。

1980年版の序

1973年「検査と技術」を創刊以来、臨床検査技師国家試験問題の解答とともに解説を掲載し、他誌にみられぬものと各方面から好評を頂いた。これは「検査と技術」の歴代の編集委員や、その他専門家の熱心な執筆により、教科書からは得られないユニークな内容となったもので、とくに学校の教材として使われているところもあると聞いている。

昨年、多くの方々のご意見によって、これをまとめて、利用者の便をはかるために、創刊以来、すなわち1972年秋施行から最近のものまでを一冊にして、1979年版を出版した。時を同じくして、いくつかの類似のものが発刊されたことは、その必要性のたかまっていることを示すと思われる。

今回新たに第15回、第16回臨床検査技師国家試験についての解答と解説を追加して、1980年版とした。

国家試験問題の出題の傾向がある年により多少の差がみられるが、ときには解答に難儀を感じるような問題がある。解答不能といわざるを得ない場合である。ここ数年毎回このような問題が数題あって、受験者をまどわしている。出題側の反省を求めたいが、いずれにせよ、これらの疑問点について本書の解説は明確に答えてくれるであろう。

なお本問題集をまとめるに当たっては、雑誌に掲載されていたものとは異なる組み方をした。

利用者の便を考えたつもりであるが、なお意に満たない点もあり、今後さらに改善してゆきたい。

1979年版の序にも述べたように、本問題集が、単に受験対策のためにだけでなく、日常の勉学に、各教科ごとの知識のまとめにも利用されることを期待している。

1979年11月

「検査と技術」編集主幹 山中 學

目次

1972年 秋

第20回衛生検査技師国家試験

第3回臨床検査技師国家試験

公衆衛生概論（関係法規を含む）	1
臨床病理学総論	2
臨床検査総論Ⅰ	3
臨床検査総論Ⅱ	3
解剖・組織学	4
病理学	5
基礎生理学	6
臨床生理学	7
生化学	9
臨床化学（放射性同位元素臨床検査技術を含む）	10
血液学	12
微生物学	14
血清学	16
医動物学	18
医用電子工学概論	18

1973年 春

第21回衛生検査技師国家試験

第4回臨床検査技師国家試験

公衆衛生概論（関係法規を含む）	1
臨床病理学総論	2
臨床検査総論Ⅰ	3
臨床検査総論Ⅱ	3
解剖・組織学	5
病理学	5
基礎生理学	6
臨床生理学	7
生化学	9
臨床化学（放射性同位元素臨床検査技術を含む）	10
血液学	12
微生物学	14
血清学	15
医動物学	17
医用電子工学概論	18

1973年 秋

第22回衛生検査技師国家試験

第5回臨床検査技師国家試験

公衆衛生概論（関係法規を含む）	20
臨床病理学総論	21
臨床検査総論Ⅰ	22
臨床検査総論Ⅱ	23
解剖・組織学	24
病理学	25
基礎生理学	27
臨床生理学	28
生化学	30
臨床化学（放射性同位元素臨床検査技術を含む）	31
血液学	33
微生物学	35
血清学	37
医動物学	39
医用電子工学概論	40

1974年 春

第23回衛生検査技師国家試験

第6回臨床検査技師国家試験

公衆衛生概論（関係法規を含む）	1
臨床病理学総論	2
臨床検査総論Ⅰ	3
臨床検査総論Ⅱ	4
解剖・組織学	5
病理学	6
基礎生理学	8
臨床生理学	9
生化学	11
臨床化学（放射性同位元素臨床検査技術を含む）	13
血液学	16
微生物学	18
血清学	20
医動物学	22
医用電子工学概論	23

1974年 秋

第24回衛生検査技師国家試験

第7回臨床検査技師国家試験

公衆衛生概論（関係法規を含む）	24
臨床病理学総論	25
臨床検査総論Ⅰ	26
臨床検査総論Ⅱ	27
解剖・組織学	28
病理学	29

基礎生理学	31
臨床生理学	32
生化学	34
臨床化学（放射性同位元素臨床検査技術を含む）	36
血液学	38
微生物学	40
血清学	42
医動物学	44
医用電子工学概論	45

1975年 春

第25回衛生検査技師国家試験

第8回臨床検査技師国家試験

公衆衛生概論（関係法規を含む）	1
臨床病理学総論	2
臨床検査総論Ⅰ	3
臨床検査総論Ⅱ	4
解剖・組織学	5
病理学	6
基礎生理学	8
臨床生理学	9
生化学	11
臨床化学（放射性同位元素臨床検査技術を含む）	13
血液学	15
微生物学	16
血清学	19
医動物学	21
医用電子工学概論	22

1975年 秋

第26回衛生検査技師国家試験

第9回臨床検査技師国家試験

公衆衛生概論（関係法規を含む）	24
臨床病理学総論	25
臨床検査総論Ⅰ	26
臨床検査総論Ⅱ	27
解剖・組織学	29
病理学	30
基礎生理学	32
臨床生理学	33
生化学	35
臨床化学（放射性同位元素臨床検査技術を含む）	36
血液学	39
微生物学	41
血清学	43
医動物学	46
医用電子工学概論	47

1976年 春

第27回衛生検査技師国家試験

第10回臨床検査技師国家試験

公衆衛生概論（関係法規を含む）	1
臨床病理学総論	3
臨床検査総論Ⅰ	3
臨床検査総論Ⅱ	4
解剖・組織学	6
病理学	7
基礎生理学	9
臨床生理学	10
生化学	12
臨床化学（放射性同位元素臨床検査技術を含む）	14
血液学	16
微生物学	18
血清学	20
医動物学	22
医用電子工学概論	24

1976年 秋

第28回衛生検査技師国家試験

第11回臨床検査技師国家試験

公衆衛生概論（関係法規を含む）	25
臨床病理学総論	26
臨床検査総論Ⅰ	27
臨床検査総論Ⅱ	28
解剖・組織学	30
病理学	31
基礎生理学	33
臨床生理学	34
生化学	37
臨床化学（放射性同位元素臨床検査技術を含む）	39
血液学	41
微生物学	44
血清学	47
医動物学	49
医用電子工学概論	50

1977年 春

第12回臨床検査技師国家試験

公衆衛生概論（関係法規を含む）	1
臨床病理学総論	2
臨床検査総論Ⅰ	3
臨床検査総論Ⅱ	4
解剖・組織学	6
病理学	7
基礎生理学	9

臨床生理学	10
生化学	13
臨床化学（放射性同位元素臨床検査技術を含む）	15
血液学	17
微生物学	20
血清学	22
医動物学	25
医用電子工学概論	26

1977年 秋

第13回臨床検査技師国家試験

公衆衛生概論（関係法規を含む）	28
臨床病理学総論	30
臨床検査総論Ⅰ	31
臨床検査総論Ⅱ	32
解剖・組織学	34
病理学	35
基礎生理学	37
臨床生理学	39
生化学	42
臨床化学（放射性同位元素臨床検査技術を含む）	43
血液学	45
微生物学	48
血清学	51
医動物学	53
医用電子工学概論	55

1978年 春

第14回臨床検査技師国家試験

公衆衛生概論（関係法規を含む）	1
臨床病理学総論	3
臨床検査総論Ⅰ	4
臨床検査総論Ⅱ	6
解剖・組織学	8
病理学	9
基礎生理学	11
臨床生理学	13
生化学	15
臨床化学（放射性同位元素臨床検査技術を含む）	17
血液学	19
微生物学	22
血清学	25
医動物学	27
医用電子工学概論	29

1978年 秋

第15回臨床検査技師国家試験

公衆衛生概論（関係法規を含む）	30
臨床病理学総論	31
臨床検査総論Ⅰ	33
臨床検査総論Ⅱ	34
解剖・組織学	35
病理学	37
基礎生理学	40
臨床生理学	41
生化学	44
臨床化学（放射性同位元素臨床検査技術を含む）	47
血液学	49
微生物学	53
血清学	56
医動物学	59
医用電子工学概論	61

1979年 春

第16回臨床検査技師国家試験

公衆衛生概論（関係法規を含む）	1
臨床病理学総論	3
臨床検査総論Ⅰ	4
臨床検査総論Ⅱ	5
解剖・組織学	8
病理学	8
基礎生理学	11
臨床生理学	13
生化学	16
臨床化学（放射性同位元素臨床検査技術を含む）	18
血液学	21
微生物学	25
血清学	28
医動物学	31
医用電子工学概論	33

1972年 秋

第20回衛生検査技師国家試験

第3回臨床検査技師国家試験

公衆衛生概論

- 問題 1 平均寿命が男女とも最近最も長い国はどれか。
 1. 日本 2. 大韓民国 3. ドイツ連邦共和国
 4. アメリカ合衆国(白人) 5. スウェーデン
- 問題 2 わが国人口のうち、65歳以上の老人が占める割合はおおよそどれくらいか。
 1. 3% 2. 7% 3. 15% 4. 30% 5. 50%
- 問題 3 事業所における特殊健康診断の対象は次のうちどれか。
 1. 高齢労働者 2. 婦人労働者 3. 重労働者
 4. 有害業務従事者 5. 事務従事者
- 問題 4 次のうち事業所の衛生管理者の業務はどれか。
 1. 法定伝染病患者の輸送 2. 作業場の安全管理
 3. 医療扶助の給付 4. 従業員家族の健康診断
 5. 従業員の健康管理
- 問題 5 気動(気流)を測定するのに用いられる器具はどれか。
 1. カタ温度計 2. アウグスト乾湿計
 3. アスマン通風湿度計 4. フォルタン気圧計

5. アネロイド気圧計

- 問題 6 水俣病の原因の一つと考えられているものはどれか。
 1. PCB 2. カドミウム 3. 気中オキシダント
 4. いおう酸化物 5. 有機水銀
- 問題 7 動物に保有されてヒトへ感染することの最も多い病原体はどれか。
 1. ジフテリア菌 2. サルモネラ 3. コレラ菌
 4. 百日せき菌 5. 破傷風菌
- 問題 8 伝染病とその病原体排せつ経路に関する次の組み合わせのうち誤っているものはどれか。
 1. 細菌性赤痢——糞便 2. 腸チフス——尿
 3. ワイル病——尿 4. 百日せき——糞便
 5. ジフテリア——咽頭分泌物
- 問題 9 飛沫感染するものはどれか。
 1. サルモネラ菌 2. 麻疹 3. 日本脳炎
 4. 細菌性赤痢 5. ポツリムス症
- 問題 10 トキソイドが予防接種に用いられる疾患はどれか。
 1. ポリオ 2. 破傷風 3. 麻疹 4. コレラ

——解答と解説——

公衆衛生概論

- 1 (5) 2 (2) 3 (4) 4 (5)
 5 (1) 6 (5) 7 (2) 8 (4)
 9 (2) 10 (2)
2. 1970年の統計で0～14歳23.8%, 15～64歳69.2%, 65歳以上は7.0%となっている。
7. サルモネラ菌は、ふつう動物体が感染源となる。伝染様式は糞便汚水により汚染した食品、汚水から採取した貝類、肉類、保菌動物である。破傷風菌もネズミなど動物により人体への感染がみられるが、最も多いという点で2。
10. トキソイドワクチンを用いるのは、このほかにジフテリア、ブドウ球菌がある。

臨床病理学総論

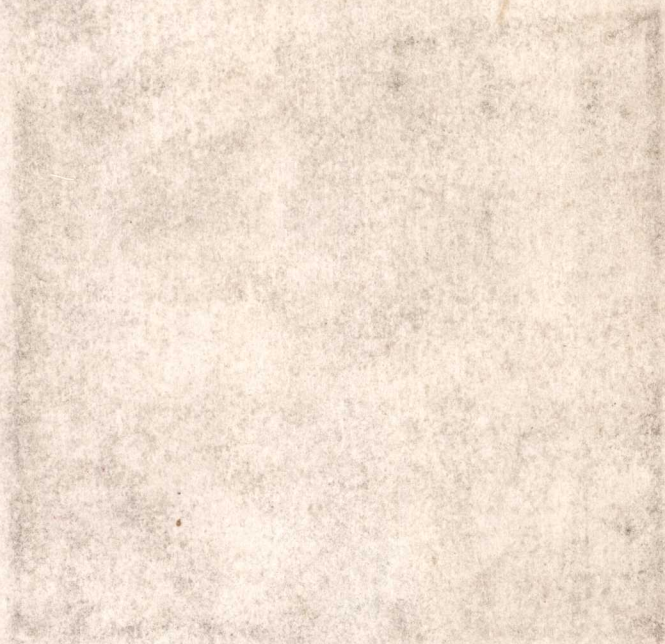
- 1 (5) 2 (2) 3 (4) 4 (2)
 5 (3) 6 (4) 7 (4) 8 (5)
 9 (1) 10 (3)
4. すべて内分泌系の病気である。クッシング症候群とは1932年、米国の Cushing が報告した病気、下垂体前葉、副腎皮質の障害があって、コルチゾンの過剰分泌が原因となる病気である。からだ全体の皮下脂肪が多く肥満し、筋力が弱くなり感染しやすく、骨折を起こしやすい。原発性アルドステロン症はやはり副腎皮質の障害で、皮質ホルモンのうち、電解質バランスに影響しているアルドステロンが多量に分泌された結果起こる。

る。この病気は高血圧があり、ときに急に手足が動かなくなったり、多尿などが主な症状で、血清カリウム値の著減することが特徴となっている。

以上2つとは逆に、副腎皮質ホルモンの分泌減少(機能低下)によって起こるのがアジソン病で、血圧が低くなりやせて、全身皮膚のメラニン色素が多くなり色が黒くなってきて、ついには死亡する。褐色細胞腫も副腎の病気であるが、これは副腎髓質の腫瘍でカテコールアミンを過剰に産出し、発作性の高血圧や頭痛、動悸などを訴え、放置すると脳出血や肺浮腫を引き起こして死亡する。

尿酸症は低比重多尿を主症状と

61 2-4-3



557